

2022年1月 ワンデーポート通信 第257号

ご報告

2021年度東京パチンコボランティア基金によるワンデーポート入所初期費用給付金は、上限金額に達したため終了いたしました。今年は6名に合計105万円の給付をいただきました。東京都遊技業協同組合の関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

今年3年目の運用になりますが、1年目に利用されたAさんのご家族から、お礼のメッセージをもらいました。

Aさんのご家族

子の異変に気が付いたのはその当時、長年勤めていた会社でアパート家賃の半額助成の制度が使えなくなり、アパートを出なくてはならなくなった数か月くらい前の頃でした。今から思えば仕事も、心身共にかなりハードでそれでも必死でなんとかこらえて頑張っていたんだと思います。きっとそのストレスから給料日から数日で、あっという間に競馬でお金が消え、でも、なんとか自分なりに考えて競馬で大当たりさせて引越し資金を調達しようと思っていたようです。競馬で大当たり！これしか本人に道はないと、本当に追い詰められていたのだと思います。

息子の様子がおかしいぞ！と思っても、どこに相談して良いのかわからず、情報収集と思い、ネット検索してたどり着いたのが、リカバリーサポート・ネットワークという団体のHPでした。藁にも縋る思いで、すぐに電話をして数日後に開催される個別相談会に予約を取り、相談に行ったのがきっかけでした。それまで、インターネットや本などから必死に得た情報から、息子はきっとギャンブル依存症という病気にかかってしまった！だから早急に治療が必要なんだと思い込んでいました。今となれば、そう思い込むことで母親である自分に折り合いをつけていたんだなあ～と思います。しかしそのリカバリーサポート・ネットワーク対面相談会で専門の相談員の人から話を伺っている中で、特に印象的だったのは、息子と同じようにギャンブルの問題を抱えている人が100人いたとしても、その100人の背景は一人一人違います。だからギャンブルそのものにアプローチするのではなく、そうなった原因に向き合っていくこと、そして生活や仕事の環境を変えたり、行動を変えることでギャンブルを必要としなくなるという考え方があるということでした。この話を伺っていた時に、一瞬にして全身の鳥肌が立ったのを今でも鮮明に覚えています。まさに目から鱗でした。これが本質なんだと心からそう感じ取りました。

その後、その対面相談会がきっかけでワンデーポートと出会い、息子が紆余曲折を経て、ちょうど一月後の若葉の季節に、有難いことに東京パチンコボランティア基金の助成金の制度を使わせていただき、ワンデーポートに入所することができました。確か、助成金利用第一号だったような（笑）。約一年半の入所を経て、入所していた頃からお世話になっていたボランティアからはじめた職場に有難いことにそのまま雇用していただき、働いています。みなさんに支えていただきながら

ら、おかげさまでワンダーポートの近所にアパートを借りて一人暮らしをしています。この場をお借りしてリカバリーサポート・ネットワークの皆様、東京パチンコボランティア基金に関わる皆様、ワンダーポートの支援者の皆様、本当に本当に、感謝の気持ちでいっぱいです、ありがとうございました。

AさんとAさんのご家族がはじめてワンダーポートに相談にいらしたのは2019年4月でした。Aさんは、すぐに入所する選択はしませんでした。ただこのとき、東京パチンコボランティア基金によるワンダーポート入所初期費用給付金の運用が決まっていて、私は「もし行き詰まったらいつでもワンダーポートに来て良いよ。東京都のパチンコ組合からお金が出るので心配しないでいいから」と伝えました。1ヶ月後に、Aさんは突然ワンダーポートに来て「入所したいです」と言ってきました。

この基金の存在があるお陰で、入所するハードルを下げていると思います。給付金で1ヶ月間入所カリキュラムを受けてもらった後は、家族の負担で継続される人もいれば、生活保護を申請される方もいます。生活保護の申請については、ワンダーポートの寮に入っただけで、というわけにはいかないのが給付金が繋ぎとして大きな力を発揮しています。生活保護の申請窓口でも、パチンコ業界からの給付金があることを驚いていました。

ワンダーポートは、国の制度による障害福祉サービスを使っていませんので、受給者証を取ってくだという面倒な手続きは一切不要です。利用したい人が利用したいときに、しかも経済的負担を強いることなく利用してもらえる制度があるというのは、画期的なことではないかと思います。

(中村)